

(本文書は鳳至郡氣屋の百姓が、氣屋大王社への寄進に關する契狀なりといふ。然れども屋敷百間四方といふ如きは過大なるのみならず、神主丹波を別當と記せるも疑ふべし。)

六月三日。蔭涼軒集證、一向宗徒の江沼郡橫北郷内寶幢院を押領するを幕府に訴ふ。

【蔭涼軒日録】

一〇七四

賀州橫北郷内寶幢院事、爲紹纂都管開基、大智院殿様御祈禱所候。仍彼在所事、紹纂藏主相續知行無相違候處、近年一向衆押領候。以此旨預御披露、被成下御奉書候者可畏入由候。巨細寺家雜掌可被申候。恐々謹言。

(延德三年) 六月三日

集證 在判

齋藤大藏入道殿

御宿所

八月十一日。幕府、山城賀茂別雷社領河北郡金津莊に有松四郎の亂妨を停む。

【賀茂別雷神社文書】 山城

一〇七五

加茂社領加賀國金津庄事當知行之處、有松四郎施入部云々。言語道斷次第也。不日退彼妨、彌全領知可被專神用由、所被仰付也。仍執達如件。

延德三年八月十一日

沙彌 在判
(松田數秀) 對馬前司 在判

當社神主殿

十一月二日。後土御門天皇、加賀國等、例に依り國役采女養料を進めしめ給ふ。

【宣秀御教書案】

一〇七六

當國役采女養料、任例可令進濟給者。依天氣執達如件。

(延德三年) 十一月二日

(中御門) 左少辨宣秀

但馬守殿 遠江守殿 攝津守殿

越中守殿 紀伊守殿 河内守殿

越前守殿 播磨守殿 美作守殿

周防守殿 備中守殿 和泉守殿

加賀守殿 以上十一通一采女申之

延德四年

壬子

明應元年

七月十九日 紀元二二五二 改元

九月五日。幕府、加賀守護富樫泰高をして、定永都聞の山城南禪寺領能美郡得橋郷を違亂するを停めしむ。

【南禪寺文書】 山城

一〇七七

南禪寺雜掌申當寺領加州得橋郷事、當知行之處、定永都聞相語方々、可強入部造意在之云々。言語道斷之次第也。既於彼都聞者、先年對寺家條々依致不儀、被成御下知被追出當寺訖。然未蒙御免許、或徘徊所々、或妨當郷之條、罪科令重疊者歟。所詮任先度御成敗之旨、重被成奉書之上者、至同意之族者、可被處其科之段、堅可被加下知被官人等之由、被仰出候也。仍執達如件。

延德四 九月五日

(齊藤) 基 在判
(松田) 數 秀 在判

富樫介入道殿

明應元年

四五五

(九月五日)は明應元年なり。この文書に延德四とあるものは追書なるべし。)

是歲。假揭

【本誓寺藏蓮如上人壽像贊】 石川郡

一〇七八

古在東山靈地、雖立一流宗義、

今ト山科林窓、欲遂安養往生、

同彌勒慈尊、曉待畢命、惠期夕、

法印權大僧都大和尚位兼壽

佛にも祖師にもよはひおなじく

いたる八十地のかずぞたふとき

極樂へ我行なりときくならば

いそぎて彌陀をたのみみな人

明應元年

滿八十歲

(この文は蓮如の畫像の上部に貼布せられて、その自筆なりと稱せらるゝものなり。然れども蓮如にして八十歳ならば明應三年たらざるべからず。故に今疑を存す。)